

花を植えています

多面的機能支払交付金（旧農地・水保全管理支払交付金）事業の活動を紹介

多面的機能支払交付金事業は、旧制度名の「農地・水」の愛称で親しまれており、農村環境資源を農業者だけでなく、集落や関係団体を含めた地域ぐるみで保全し、故郷の農村風景を守っていくことを目的としています。

この事業は平成19年度からの旧制度より通算して10年が過ぎ、次第に取り組む地区が増えております。

現在、神崎神宿、並木、武田、新、毛成、古原、植房、立野、郡の計9つの地区で取り組んでおり、本町に所在する優良農地の約50%（350ha）の農用地が対象となりました。

各組織は、農道の補修や舗装、除草作業や水路の清掃をはじめとした、施設保全に関する活動の他、遊休農地や農道等を活用して花の植栽を行い、農村環境資源を魅力あるものにするための景観形成を行っています。

今回は新・植房・武田・古原地区の実施した景観形成の取組みを紹介します。



新地区：新地区から香取市へ抜ける町道沿いに色とりどりの花を植栽し、農村風景に彩りを添えました。



植房地区：植房地区では、圃場条件が悪く水稻作付が困難であった休耕田を利用して、様々な花卉を植栽し農地を保全する活動を行っています。



武田地区：県道沿いの休耕地にサルビア等を植栽しました。



古原地区：町道沿いの農用地法面にヒマワリなど様々な花卉を植栽しております。